

令和2年度第1回 安城市総合計画審議会 議事要旨

日 時	令和2年6月22日（月） 午後2時～3時40分	
場 所	安城市民会館3階 大会議室	
出席者	委 員	加藤研一会長、 飯尾 歩委員、安田孝美委員、久恒美香委員、大谷利夫委員、 加藤宣子委員、神谷明文委員、沓名俊裕委員、塚田哲雄委員、 戸田こず恵委員、野上三香子委員、伊藤朝野委員、菊智ゆき 委員、宮澤和枝委員
	事務局	市長、副市長、教育長、企画部長、行革・政策監、 関係部長級幹部、企画政策課長、企画政策課職員
次 第	1 市民憲章唱和 2 市長あいさつ 3 議題 (1) 第8次安城市総合計画（前期計画）の実績報告について (2) まち・ひと・しごと創生総合戦略（第1期戦略）の実績報告について (3) 地方創生関係交付金を活用した事業の実績報告について (4) 実施計画の策定方針について 4 その他	

1 市民憲章の唱和

2 市長あいさつ

皆様、こんにちは。

本日は、ご多用の中、総合計画審議会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

昨年度は、第8次安城市総合計画の後期計画及び第2期まち・ひと・しごと創生総合戦略策定にあたり、委員の皆様には、熱心にご審議をいただき、貴重なご意見ご提言を賜りましたことに改めて感謝申し上げます。おかげをもちまして、この令和2年度から「ケンサチ2.0」と銘打った新たな後期計画のスタートを迎えることができました。

しかしながら、現在、策定当時には予想もしなかったコロナ禍に見舞われ、社会経済情勢には暗雲が立ち込めている状況となっております。今や、健やか幸せというこの計画の目標は本市の重要目標にとどまらず、日本の、そして世界中の大目標と化した感があります。一足先にヘルスの健康づくり、市民の幸せ実現を目指してきた本市としましては、前期4年間で広がりつながったケンサチの取組みを、新しい生活様式にかなう形にせねばなりません。そして全国のモデルとなるくらいの気概を持って、第8次総合計

画の集大成に向けて進んでいきたいと考えています。

さて、本日の審議会では、昨年度までの第8次総合計画の前期計画、第1期のまち・ひと・しごと創生総合戦略の実績報告と地方創生交付金を活用した事業等を報告いたします。また、最後に今年度の実施計画の策定方針についても報告させていただきます。

新型コロナウイルスという、見えない相手と向かい合いつつ、本計画を進めていかなければなりません。事業の成果を客観的に分析・評価したうえで、刻一刻と変わる社会経済情勢に対応すべく、既成概念にとらわれない発想や視点での見直しが必要ですので、皆様方のご意見を賜り、ご審議をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上、私からのあいさつとさせていただきますと思います。

本日はどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 5 議題

### (1) 第8次安城市総合計画（前期計画）の実績報告について

#### 【加藤研一会長】

皆さん、こんにちは。

昨年度に続きまして、安城市町内会長連絡協議会会長の立場でこの総合計画審議会会長を務めさせていただきます。よろしくお願い致します。

先ほど市長からもお話がありましたように、令和元年度は計画の見直しということで大変ハードなスケジュールでしたが、皆さん方の御協力で無事進めることができました。

それでは早速議事に移りたいと思います。

(事務局説明)

#### 【加藤研一会長】

ただいま事務局から第8次安城市総合計画の実績報告について説明がありました。ご意見ご質問がございましたらご発言をお願いします。

よろしいでしょうか。

第8次総合計画がスタートして、前期4年の計画が終了しました。順調に目標を達成した指標もありますが、一方で未達成の指標が約半数あり、後期計画でも引き続きしっかり事業を進めていただきたいと思います。

以上で、議題（1）第8次安城市総合計画（前期計画）の実績報告についてを終わります。

続いて事務局より（2）まち・ひと・しごと創生総合戦略（第1期戦略）の実績報告について説明をお願いします。

### (2) まち・ひと・しごと創生総合戦略（第1期戦略）の実績報告について

(事務局説明)

**【加藤研一会長】**

ただいま事務局からまち・ひと・しごと創生総合戦略の実績報告について説明がありました。ご意見、ご質問がありましたらご発言ください。

**【神谷明文委員】**

良質な住宅地の供給ということで、区画整理事業により安城市桜井駅周辺で宅地を供給されているということはいいと思いますが、根本的には農地の宅地転用を図らないと本当に宅地は出てこないと思います。

それにはやはり農業委員会等の折り合いをつけていただかなければならないわけですが、農業委員会は今、周りがほとんど住宅地になっていてもたとえば農地があるという場合に、それをたとえば駐車場に使っているということに対して、早急に農地に戻すようにということを指導されてるわけでございまして、良質な住宅地の供給という目標と、農業委員会との、折り合いがついていないのではないかという気がいたしますが、その点はいかがでございませうでしょうか。

**【行革・政策監】**

総合戦略におきましては、良好な住宅地の供給ということとあわせて、さまざまな農地関係法令によりまして、いわゆる優良農地の保全を平行して進めているところでございます。そうしたいろんな制度のバランスをとり、うまく調和をさせながら市としての宅地の供給と農地の保全を両立させるべきだという意見だと思っております。

一方で、農業委員会ではたとえば農地法や農振法に基づいて、その法令制度の中で農地転用は許可されておりますので、農地を保全するという大義のために、いたずらに宅地化供給を阻んでいるというようなものではございませんが、神谷委員の趣旨は大変よくわかりますので、いわゆる都市的な部分と農村的な部分の共存共栄というものを重視しながら、制度の中できちんと宅地の供給を私共が掲げた目標に沿って進めていけるように今後も関係施策を総動員していきたいと考えておりますので、ご理解をよろしくお願いいたします。

**【加藤研一会長】**

それではご意見が出尽くしたということで、今日の、委員の皆様、神谷委員の御意見も踏まえまして、今後も引き続き着実に事業を進めていただきたいと思います。

以上で、議題（２）まち・ひと・しごと創生総合戦略（第１期戦略）の実績報告についてを終了します。続きまして議題（３）地方創生関係交付金を活用した事業の実績報告について、事務局より説明をお願いいたします。

**（３）地方創生関係交付金を活用した事業の実績報告について**

（事務局説明）

**【加藤研一会長】**

ただいま事務局から地方創生関係交付金を活用した事業の実績報告について説明が

ありました。

ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

**【沓名俊裕委員】**

今、説明にあった中に、ABC（安城ビジネスコンシェルジュ）さんの話がありまして、非常に実績を積んで、いろんな面で、安城市の企業、地域の発展のために、多大な貢献をしてきている、実績を積んできていると思っています。安城商工会議所としても、全面的にバックアップしながら、応援していきたいと思います。

特に、この新型コロナの影響で地域に多大な、いわゆるマイナスなところが非常に多い中、新しいこのコロナに対応する商品をつくって、新しいその需要を起こしていくということは、まさに理にかなったやり方だと感心しております。また、24日には安城芸妓が、アンフォーレの外で芸妓を行われますが、これも今までにない画期的なアイデアをABCさんが出されて実施していくもので、これらの行動力について、敬意を表するものであります。

ますますいろんな形で、協力しながらバックアップしていきたいと感じた次第ですので、一言をご報告させていただきます。

**【加藤研一会長】**

ほかにございますか。

ではほかにはないようですので、本日の沓名委員ほかからの意見を参考にして引き続きしっかり事業を進めていただきたいと思います。

以上で議題（3）地方創生関係交付金を活用した事業の実績報告についてを終了します。

続きまして議題（4）実施計画の策定方針について、事務局より説明をお願いいたします。

**（4）実施計画の策定方針について**

（事務局説明）

**【加藤研一会長】**

ただいま事務局より実施計画の策定方針について説明がありました。ご意見ご質問がございましたらお願いします。

**【菊智ゆき委員】**

全体的に、ABCさんに相談が増えているというところは私も安城市に住んでいていろんな仕事をさせていただいていて実感する時がありますが、若者たちがやる気があってABCさんに相談に行って、すごく親身になっていろんな話を聞いてくれたという言葉はよく聞きますが、一方で市や行政と相談しながらやらなければいけないというところも出てきたりするときに、前例が、とか、実績が、というお話でとまってしまうことが多々あると聞いています。そんなときに、よしやってみなさいと、これから頑張った

いという人たちにいろんな場所が提供してあげられる状況も必要なのではないかと  
思うことがあります。

コロナが終息した後は生活も仕事のやり方も変わってくると思うので、そのあたり  
を柔軟に対応していけるといいのではないのでしょうか。第一線でこうやって活躍されて  
いるこの会場の中の皆さんたちもいらっしゃるので、後ろについていただければ若い人  
たちも安心してチャレンジできると思います。

#### 【行革・政策監】

このコロナショックによりまして全ての社会経済活動が、想定外の事態に陥っており、  
メディアでは、ニューノーマルといいますか、新たな日常や新たなビジネスモデルをつ  
くらないといけないというような状況に私共は追い込まれてしまいました。

今、菊智委員がおっしゃったとおり、そうした意欲のある若者の方々がチャレンジで  
きるような、そういう安城市政であったりそういう支援であったり、政策が必要だとい  
うことを私共も思っております。

菊智委員もいろんな立場の中で、公民連携事業や、まちづくりにかかわっていただい  
ておりますし、今年度からは安城市企画政策課に公民連携係を新たにつくりまして、そ  
して窓口を一本化するとともに、そういういろんな事業者の方々や市民の方々の相談窓  
口も設けていきたいと思っております。1件でも2件でもそうした意欲のある方々のチ  
ャレンジを後押しできるような取り組みに努めてまいりたいと思っておりますので、引  
き続き、ともに頑張っていきましょう。よろしく申し上げます。

#### 【加藤研一会長】

特に2月以降、このコロナウイルス感染、拡大防止ということで、いろんな規制やル  
ールが決められて、私たち町内会を預かってるものとしてなかなか動きづらいというの  
は現実にあります。そうかといって全部何もかもやめてしまうというのは、私はそこま  
で消極的になる必要ないという考え方で日ごろ運営しております、簡素化する、人や、  
規模を縮小して行うとか、いろんな工夫の仕方を取り入れた上で、やれると判断したも  
のはやっていくというつもりでおります。

そういった中でなかなか団体によってはそこまで厳格では動きませんよ、というのは実  
際ありますが、説得しながらこれからもやれるところはやっていきたいです。

このコロナにつきましては、明確ないつから解除になるということはなかなか期待でき  
ませんので、仕方がないのかなと常々思っております。

#### 【加藤宣子委員】

少し前に戻ると実績の中でBMIが標準の人の割合が達成できなかったというよう  
な結果がどちらの指標にもありました。

今、皆さんおっしゃるように自分の健康は自分が管理しないといけないという、自分  
の生活を見直す良い機会になったのではないかなと思います。うまく期間を利用してよ  
り健康に対する、BMIがいかに標準であることが大切であるというようなことを、も

う少し市民の皆さんにPRするような機会がもしできたら、少しでも指標が上がるのではないかと思います。

**【加藤研一会長】**

私も、事前にいただいた資料の中で、BMIが指標に達していないのはどうかなと思っておりまして、今は人間ドックというか、特定健診というか、いろんな対策を市としても行っていると思いますが、検査とそれに基づく保健指導が必要だと思っています。検査を100%実施できていればもちろんいいのですが、これまで実施できているのでしょうか。保健センターから各家庭に郵送で案内が送られますが、今年の対象者と実際案内を受けた人の実績の数字がもしわかれば一緒にお答えしていただきたいと思います。

**【子育て健康部長】**

まずBMIのことについてですが、やはり、安城市のBMIというのは、全国、あるいは県下と比べても、高い状況にあります。これは運動不足ということかと思いますが、特にコロナ禍においては、なかなか外出できない、それから新しい生活様式ということで人が集まる3密を避けるということもありまして、人と交わりながら一緒に運動することも困難な状況になっております。

そうした中で実施できることというのは、やはり動画を制作して皆さん見ていただくとか、あるいはオンライン会議のような、お年寄りの方もインターネットとかそういったものを活用してできることが必要かと思っております。現状はよくないですが、今後もそういったことを活用して、できるだけBMIを下げたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

2点目は健診の話ですけれども、検診は安城市の方は結構受けられるという数値は、すみませんが今は持っておりません。ただこの中において、医療関係の方の話を聞きますと、安城市の市民の方は慎重で、なかなか検診にも出てこれないという話を聞いております。

こういった状況でも第1派と第2派の間がありますので、そういったところを活用して受けていただきたいと思っており、その辺りは積極的に推進をしていきたいと思っております。

ただ検診が全てではなく、日々の生活習慣、生活習慣病にならないようにすることが非常に大切ですので、そういった啓発もしっかり努めてまいりたいと思いますので、よろしくをお願いいたします。

**【伊藤朝野委員】**

ケンサチ事業の内容にかかわることなのかなと思いますが、養護施設の、子供たちの声がどのように反映されるのかというのが全然で見えてこない問題があります。明石市とか福岡市では、里親制度で一時保護として小学校区に里親の方がいらっしゃるっていうことをお聞きしたことがあります。一時保護になった場合に小学校に通えないとい

うことが、これで防げているというのを聞いたので安城市の取り組みがどのようになっているのかお聞きしたいなという点、もう一つ、ひとり親世帯の満足度が、希望の目標数に達しているとなっていました、これは親に対してのアンケートなのか子供に対して聞き取りをしているのかその辺りを伺いたいというのと、子供の声をもう少し拾ってもらえたら嬉しいです。

私自身が母子家庭だったときがありまして、やはり他の家庭と比べることができない状況の中で、皆さんもきっと子供時代は自分の家庭の中のことしか思い浮かばないとは思いますが、でも、声に出すことができる状況があれば、変わっていくことが、変えていくことができるのかなという部分を感じています。

ぜひ子供の声を拾う活動になったらと思ひまして声を出しました。

#### 【子育て健康部長】

3点の御質問をいただきました。

まず1点目、児童クラブということで昨年も子供の声を聞いていただきたいという質問があったかと思ひます。調べたところ、西三河8市で子供の声を聞くアンケートを実施しているところは1市だけでした。ただその子供の声を聞くというのは、実は保護者の方の御意見も一緒に聞くということで、なかなか委員が言われるような子供の意見を聞くというのは難しいということです。

親子一緒に聞くという話になると、現状では市長へのメールによって保護者から児童クラブの運営についての意見も聞けておりますので、当面はこれでいいかと思ひております。ただ、やはり子供の意見を聞くということは大切なことだと認識しておりますので、この辺りについてももう少し研究していきたいと思ひます。

それから2点目の里親、一時保護の関係ですけれども、これは愛知県、国を上げて里親制度を充実するという事は聞いておりますが、実際に安城市でそこまで進んでるかというところではありませんので、これはこれからの研究課題と認識しております。

それから3点目、満足度について子供の意見が聞かれているか、大人だけの意見かということですが、今回の市民アンケートの対象年齢が10歳代から高齢者となっておりますので子供の意見というものは一部分は反映していると認識しておりますが、実際は数が少ないというところであります。

保護者からは満足度が高いという結果になっておりますのでその点はいいかと思ひます。

#### 【神谷明文委員】

今のご質問の、里親というのは、虐待問題で一時保護された人の里親という意味ですか。そうですね。私は、児童相談所には少し関係しておりますので、申し上げますが、里親というのは、いわゆる養育里親と、本当の親子関係の2種類ありまして、一時保護の場合の里親というのは、養育里親ということです。これは、児童相談所は、県の役所でございますので、安城市が直接行うことはないですが、安城市は児童相談所、ここの

辺りですと刈谷の児童相談所に頼まれて里親さんを探すということはあると思います。

ただその一時保護というのは、親から虐待を受けている子供の一時保護ですので、親が、子供さんを探して取り返すとかいうようなことがしばしばありまして、そういう人は里親さんに預けられないので、一時保護所に入ります。一時保護所が、非常に整備が不完全で、私はこの一時保護所を充実させていかななくてはいけないということは、前から思っております。それは愛知県が予算をつけてそういう場所や人を増やしていただかないといけないのです。

確かに一時保護所から学校に通うということはなかなか難しいので、地元から保護してきて、一時保護所に集めて入れてしまうということになります。学校へ通うためには各地元に秘密を保持できる人が里親としていてくれないといけないのです。

安城市がそれを積極的に行う権限がありませんので、それは愛知県の役所にある児童相談所からの委託を受けて探すということになるかと思えます。それは安城市レベルでいえば非常に協力体制ができておりますので、今後、愛知県から要請があればやっていけるだろうと思えます。

**【加藤研一会長】**

ありがとうございます。

事前に出した質問の中で、特にあんくるバスの問題について、一言、担当部からもう一度考え方を説明いただければと思います。

**【都市整備部長】**

事前にいただいたご質問の内容ですが、あんくるバスの最近の乗降客数とそれから合わせて満足度が最近少し低下をしておりますので、そのあたりの対策についてのお尋ねでございます。

1点目のあんくるバスの乗車数でございますが、平成29年度以降のご質問でしたので記載のとおり平成29年度は58万6000人、平成30年度は57万8000人では令和元年度では56万人ということで、大体56万から58万を前後して、高いとき低いときがございます。ここ1、2年は、若干循環線を見直した、便数を減らした影響もございまして、微減していると考えられます。

また令和元年度につきましても、令和元年度の末にはコロナの影響が出ておりましたので、その関係もありまして56万人という形で減っている状況でございます。

2点目の質問は、あんくるバスにつきましても、平成26年に再編のための地元の懇談会を実施をして再編をした経緯がございます。次回もそういった懇談会を開催しながら、再編をしていくのかという、御質問につきましては、現時点では、開催する予定はございませんと回答をさせていただきました。

公共交通の満足度を向上させる対策のうち、このあんくるバスに関しましては、移動する際の公共交通利用に対する移動変容を促すモビリティーマネジメントの取り組みを実施することで公共交通への認知度、そして、理解度を高めていき、満足度を向上し



ていきたいと考えておりますのでまたよろしく願いをいたします。

**【加藤研一会長】**

平成26年度、地元での意向集約というのが何回かありまして、私も当時出席しておりますが大変思い入れがあります。その中での皆さんが各地から、安城駅とかに全部が直行するのではなく、途中、今回の場合は更生病院でしたが、そこで乗りかえてでもいいから便数、市の循環線としての本数が充実しておれば、乗りかえても、結果的には、利用がしやすくなるのではないかという意見が多くて、この循環線というのが確かそのときに出たと思います。

懇談会のこともありますし、その後で、ダイヤ改正を何回かやっていただきましたよね。私も頻繁に利用するわけではなく、夕方に乗ることが多いのですが、そうすると更生病院までは確かにすいてるのですが、循環線はかなり混んでいるという認識がありました。

循環線があれだけ混むのであればもう少しそこへ出るまでも、皆さんがもっと利用してくれるのかということで、その辺りに満足度を上げていく1つのヒントがあるのかということで、こういう質問を出させていただきました。

引き続き今のモビリティマネジメントや、いろんな対策を打っていただいて、市民の皆さんが喜んでいただければいいかなと思います。

ほかはよろしいですか。それではここで飯尾委員からお願いします。

**【飯尾 歩委員】**

いただいた資料の冊子を読んでいて、特にこのまち・ひと・しごと創生総合戦略の中でですね、基本目標をケンサチプロジェクトの1、人づくり 健康で幸せに暮らし続けるという、このテーマを見ていまして、常々から思っていました、コロナは、ケンサチのまちづくりにとってはチャンスなんじゃないかという気がしてならないのです。

私事で恐縮ですが、これはコロナ禍になる前から予定されていたことですが、コロナがやかましくなり始めた4月の初めから、検査をしながら栄養指導を受けつつ生活改善をしました。普段だったらできなかったと思うのですが、コロナ禍でテレワークしたことによって通勤時間を運動に当てることができたので、プログラムを行うことができました。これが、テレワークが終わってからもいまだに続いています。結局、病気を自分で治すことというのはなかなか難しいけれども、健康を保つというのは自分の力がほとんどだとその時に思いました。僕にとっては非常にコロナがチャンスになったわけです。

先ほども加藤委員が生活を見直す良い機会であるとおっしゃいました。これは、ケンサチのまちづくりに向かって、まち自体やその自分自身を見直す良い機会なのではないかと思います。

いま一度失ってしまった日常というのが大切なものであるかということ、それをキープしていくことが持続可能性であるということ、それを見直す良い機会だと思いました。

先ほど実施計画の策定方針の中で、ゼロベースによる事業の見直し、全て貸し借りな

しにするわけにはいきませんが、公民連携等による事業実施等、市費に依らない新たな生活、新たな手法による事業運営の説明がありました。これは、難しいですが、新たに市民との連携を結び直す、市民が市民としてやれることをやるという、そういう方向性がここから出てきて良いのではないかと思います。

よく最近SDGsも流行語になっています。SDGsの前にMDGsというミレニアム開発目標、これは2000年から15年間の目標ということなのですが、SDGsはその後継です。

未達成というより途上だったという感じでSDGsに移行したわけですがSDGsとMDGsの何が違うかというMDGsは実は途上国が舞台で、そしてその目標に達成するのは、専門家あるいはその行政に携わる人たちにとっての目標が主だったということです。しかしSDGsは地球上の全ての地域全ての人たちがステークホルダーとしてその目標達成に参加していくんだということです。誰も取り残さないというのは途上国を取り残さないという、途上国の貧困だとか、環境悪化を取り残さないというのではなく、誰もがプレイヤーとして取り残されないということも含んでいると思うのです。

そういうその個人レベルにしてもまちレベルにしても、それから地球全体のレベルにしても、コロナは本当に内側を見つめ直して新しいものを組み立てる良い機会だったのではないかと思います。その路線が今日の議論と被っている気がします。それで、この路線が良いと僕は客観的には考えるのですが、先ほどの伊藤委員が子供の声を拾ったのかということをおっしゃいましたよね。菊智委員が若者はやる気があるのにそれが反映されてない。アンケート調査の報告書の最後に市民の声がありますが、すごく旧態依然としているわけです。市に対して何かをやってほしいというのが主な意見です。市に対し要求していくことも大事ですが、たとえば、若者のやる気があるということもきちんと拾い上げるべきで、基本的にコミュニケーションが足りてないと思います。

やってほしいではなくて、やりたいを吸い上げ、総合計画の中に落とし込むというか、そこにまぶすということが大事だと思うのです。ここからここまでは市がやるからここまでは市民と市と協働してやる、これは、やる気のある若者たちがやってみるというような、その圧倒的に足りないコミュニケーション、意見の吸い上げが後期の課題だと思います。

ケンサチプロジェクトというテーマというのは、本当に世の中の流れを先取りしていたと思います。そこに住む人が住みよいと思えるまちづくりと住みよいと思えるようなまちというのは、どんなまちなのかという声を聞かないとつくっていけないと思います。

ぜひ全国的に先取りしたテーマですので国や東京の事情、首都圏の事情とかにかかわらず、少しずつ雪が解けるように推進させていただきたいというのが皆さんのご意見を伺って、資料を読んだ感想でございます。

**【加藤研一会長】**

はい、ありがとうございました。

市長が、最初の挨拶で述べられました全国のモデルになりたいという話にもつながるご意見だと思います。

では、最後になりますが安田委員よろしく申し上げます。

**【安田孝美委員】**

今日は、実績報告をしていただきましてありがとうございました。

大変しっかりとした報告をしていただいたと思っておりますが、これはよくあるパターンですが、この表の達成が○、達成しないが×というのは、これで良いと思うのですが、×のところを、どういうところがだめだったということを自己評価しているというのはとても重要なことなんですけれども、○のところをもっとアピールして良いのではないかと私は思っています、通常こういう評価の表というのは○をあまり書かないですけれど、またもし機会ございましたらこういうところを頑張ったから達成されたということをぜひ市民の皆様にもアピールできる場所ではないかと思っておりますのでご検討いただければと思います。

それからこれはこういった実績報告といえますか、今こういうところまで、できていますというのは、市民の皆様はどういう形で見ることができるのでしょうか。

**【企画政策課長】**

ウェブサイトなどでこの結果を公表させていただきます。また実施計画など一部のものにつきましては、抜粋で広報誌などにも結果を公表させていただきます。

**【安田孝美委員】**

わかりました。ありがとうございます。

先ほど飯尾委員もおっしゃいましたけれどもその公表と広聴という、市民の皆様がどう考えるかということも、是非双方向で、ウェブをせっかく使われるのであれば是非そこをもう少しアピールされるといいということと、こういった紙やスライドとかではないウェブならではの表現の仕方ができると思いますので、そのあたりもぜひご検討いただければと思います。

あとは個別のお話の中で、従前からお聞きしておりました保育園の事業につきまして大変私は関心持って聞かせていただいております、今回も非常にうまくいっているという御報告がございました。このうまく行ったところを次にどう発展させるかというところの検討というのは進んでいるのでしょうか。せっかくICTを活用して、第1段階はうまくいっていると思うので、次のレベルまでアップしていくといいのかと思いますが、いかがでしょうか。

**【子育て健康部長】**

今年度ですが、全公立の幼保育園に同じようなシステムの導入を考えております。

昨年度は1園で実施しておりましたがやはり使いにくいところもあるということは聞いておりますのでそういった点は改善していきたいと思っております。

これによる効果は、「園だより」は全部インターネットを通じて見られるため保護者

がいつでもどこでも見れるという点、それからもうひとつ、保育士からすると、時間が管理できるため、本来の子供に目を向けるという時間がしっかりとれますので、こういったICTを使った保育というものをしっかり進めたいと思っております。

**【安田孝美委員】**

ありがとうございました。ぜひこれは保育士の皆様方の今おっしゃったように本来向けるべきエネルギーがしっかりと向くような形で、ICTがどう使われるかというところを日々ぜひお考えいただいて、さらに発展させていただきますようによろしくお願いいたします。

そして最後に、スタートアップ支援の話が議論で出てきました。これも非常に重要なところでして飯尾委員の話もありましたけれども、意欲のある若者の気持ちをどう引き上げるか、大人たちがどう引き上げるかというところはぜひこれは安城市としても、積極的に考えたいと思っております。

今、私は、名古屋で中部経済連合会さんと一緒に、栄のナディアパークでスタート支援の組織運営にかかわらせていただいておりますが、私ども大学もそうですが、大学生が本気になってスタートアップをしようという機運がやっこの中部地域も出てきました。東京、関西、福岡に続いて、やっこの東海地域も出てきましたので、ぜひ安城からもABCをしっかりとやっておられるということで、よくわかっておりますけれども、そこを核にして、より一層スタートアップの志を持っている方々をご支援いただきますようによろしくお願いいたしますと思います。

それからスタートアップ支援に関しましては、当然ですが、若者というのがつきませんが、この地域は皆さんご存じのとおり、大変優秀なエンジニアがそれぞれの会社で活躍されているところがあります。最近大きな会社も副業を認めたり、新しいベンチャービジネスを立ち上げることを支援したりとかしてるようでございますので、そういったこともぜひ安城市として、そういう声をお聞きいただいて、大学生とか若者だけじゃなくて、社員の皆様でもその志のある方々を支援できるような、そういう方向性もぜひお持ちいただけるとよろしいかと思っております。期待しております。

どうぞよろしくお願いいたします。

**【加藤研一会長】**

ありがとうございました。

ほかはよろしいでしょうか。それではご意見も出尽くしたようでございますので、本日、委員の皆様から出ました意見を踏まえて、他の自治体の好事例も取り入れて、地に足をつけた計画策定に努めていただきたいと思います。

以上で議第（４）実施計画の策定方針についてを終了します。以上で本日の議題は終わりましたので、事務局にマイクを返します。

4 その他

**【事務局】**

ありがとうございました。

以上をもちまして、安城市総合計画審議会を終了いたします。次回の審議会は11月9日月曜日午後2時からを予定しております。時期が参りましたら、改めてご案内いたしますので、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。